

平成30年度 学校自己評価

4: 十分できている 3: おおむねできている 2: あまりできていない 1: できていない、改善を要する 未記入: 直接担当していない職員等で判断が困難 黄色: 1+2⇒30%以上

評価項目	目標	取組の経過	4	3	2	1	未記入	成果および課題・改善策
1	西神戸ドリカムプラン(個別の教育支援計画)	実際に活用する場面を想定した様式の改善を図る。	0.0%	52.8%	33.3%	5.6%	8.3%	修正案を作成したが、校内全体で検討する段階に進むことができなかった。また現行の様式の変更は行わなかった。外部機関との連携の際に活用することを念頭に置いて、修正案の検討を行う。
2	西神戸ドリカムプラン(個別の指導計画)	様式の確立、活用、実践の具体的な流れの整理をおこなう。	0.0%	52.8%	33.3%	5.6%	8.3%	自立活動の視点をどのように組み込むかを検討する。生徒自身が目標を意識するためのツールの整理を行う。学校全体で共有するためのしくみづくりを検討する。
3	専門教科の指導	サテライトDAY、サテライト授業を中心としたコースの学習の充実に向けて、各関係機関との連携を図る。目標設定、年間計画を集団で議論し作成する。	13.9%	61.1%	13.9%	2.8%	8.3%	校内の学習とサテライトの取り組み、職場体験実習の評価とのつながりを意識しながら授業づくりを行っていく。評価表を検討し、各コース3年間の系統性を考えながら、目標設定、中身づくりを行う。
4	教科等を合わせた指導	評価の項目の見直しを重点とした、シラバスと年間指導計画の様式の整理をおこなう。	11.1%	55.6%	22.2%	2.8%	8.3%	3年間の年間指導計画を作成した。授業内容の見直しを継続して行う。今後は「合わせた指導」の教科内容について見直しを行う。
5	授業づくり	教科横断的な取り組みで実践する授業テーマの開発とそれを可能にする校内体制づくりに取り組む。	5.6%	58.3%	25.0%	2.8%	8.3%	各授業が掲げた育てたい資質・能力の育成を目指した授業づくりを検討する。新学習指導要領の周知を図るための研修を行う。
6	道徳・人権教育	実際の授業の取り組みを踏まえて、授業内容の整理を行う。	2.8%	41.7%	44.4%	2.8%	8.3%	新学習指導要領の移行に従って道徳教育を推進する。推進担当者を1名おき、組織的に計画を実行していく。
7	交流及び共同学習	学校や地域との交流を行い、コミュニケーション力や社会性、仲間と協働的に取り組もうとする態度を育てる。	30.6%	44.4%	11.1%	5.6%	8.3%	1学年を中心に県立神戸高塚高校との交流を年3回実施した。相手校との日程調整が難しい点があり、来年度は一部の活動で、2年生のコースと交流を行うように計画する。
8	図書館利用環境の整備	ゆとりのある快適なスペースを確保し、生徒が活用しやすい環境を整える。	25.0%	63.9%	5.6%	0.0%	5.6%	今年度、図書委員が発足したので、本の貸し出し業務やラベル作成の作業が進んだ。「図書カード」の成果により、忘れることなく出席できた。実習に関しても考慮し、今後、複数学年体制にしていく。
9	ICT教育の充実	適切なICT機器を導入し、効果的な授業を展開する。	25.0%	58.3%	8.3%	0.0%	8.3%	各教室にICT機器を設置し、LHR・総合の調べ学習等、有意義に活用できた。不適切なサイトへのアクセスが発覚したため、コンテンツの制限を強化した。今後も使用法や管理について注意を喚起していきたい。
10	特別活動(ホームルーム活動、生徒会活動)	望ましい集団活動を通して、集団の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	22.2%	63.9%	5.6%	0.0%	8.3%	実行委員会および生徒会役員がテーマに沿って話し合い、活動を進めていくことができた。次年度は、活動時間の確保および年間計画に基づいて各クラスの委員長等とも協力し、活動を進めることが課題である。
11	生徒指導	日常的な基本的生活習慣の確立・獲得に向けて生徒が主体的に取り組む態度を育てる。いじめや問題行動について、教員・家庭と情報共有を図り、未然防止・早期発見・早期対応及び再発防止に取り組む。	11.1%	58.3%	19.4%	2.8%	8.3%	毎朝のSHRで「日めくり」を読み上げて、生徒自身の気づき・確認の機会を設定する取組が見られた。アンケート回数を増やしたことで、生徒の思考の傾向を把握し、支援を再確認することができた。
12	学校保健	生徒が主体性をもって健康管理に取り組み、生涯にわたり心身ともに健康な生活を送ることのできる能力の育成に努める。	13.9%	72.2%	5.6%	0.0%	8.3%	「総合的な学習の時間」に保健教育を各学年で6～8回実施し、経年で積み重ねることができた。次年度は全学年で実施していく。また、関係機関との連携を強化し、生徒の主体的な健康実践力を高めていきたい。
13	校内支援委員会	生徒の課題を共有し、学校全体で適切な支援に取り組む。生徒の学校生活の安定や全人的な成長を促す。	8.3%	61.1%	19.4%	2.8%	8.3%	支援部発足およびカウンセリングの導入1年目で、基盤づくりに追われたが、ケース会議4例及びカウンセリングを24回実施した。校内支援の流れを周知し、全職員の共通理解につなげていくことが次年度の課題である。
14	進路指導	トライやる・JOBや職業体験実習、進路説明会や個別相談会等を実施し、生徒や保護者へ就労に対する意識や理解を高める。	13.9%	61.1%	16.7%	0.0%	8.3%	各学年の生徒が実習の事前事後の指導や実習を通して、その目的を理解し体感することができた。また、進路個別相談会等の機会に、就労に向けての課題や日常の学校生活および実習の重要性を伝えることで、徐々に就労の意識を高めることができた。
15	実習・進路先開拓	生徒が「自分らしく働く」ために職種や業種の幅を広げ、多様な体験実習・進路先の開拓を図る。	25.0%	63.9%	2.8%	0.0%	8.3%	今年度、実習先として、新たに120社以上の事業所を新規開拓した。また、昨年度の課題であった「物流」「サービス」の分野について、生徒の実習希望もあり、ファーストフード店や保育園で実習を実施することができた。
16	キャリア教育の推進	生徒が「自分らしく生きる」ために社会的・職業的自立を目指し、コースやワークの授業、体験実習の中で生きる力を育てる。	5.6%	69.4%	13.9%	2.8%	8.3%	コース・ワークの作業学習や教科の授業、実習等を通して、生徒自身が自分の特性(長所や短所)に気づく場合が多々あったが、理解できにくい場合もあった。担任と教科担当、進路指導が情報交換と情報共有を密に図ることが課題である。
17	地域連携	実習や就職、卒業後に向けて各関係機関への連携を図る。	11.1%	55.6%	22.2%	2.8%	8.3%	来年度、3年生(1期生)の就労および卒業後の支援の必要性から、ハローワークや就業・生活支援センターへ就職相談会の依頼と卒業後の支援について相談し、各機関との連携を図った。3年生不在の状況もあり、校内の周知が十分図りにくかったことが課題である。
18	情報発信	ホームページを充実させ、行事や授業の様子をブログを通して広く情報発信を行う。学年通信等を通して保護者に教育活動の情報発信を行う。	36.1%	52.8%	2.8%	2.8%	5.6%	ホームページや学年通信を通して、行事や授業の様子、LHR・総合的な学習の時間の取組など、生徒たちの活動の様子を紹介することができた。今後も情報発信に努めたい。
19	専門性の向上	夏季休業期間を中心に、講師・日程等を調整し、必要な研修を企画・運営する。	5.6%	63.9%	19.4%	2.8%	8.3%	年度当初の予定通りに研修を実施することができた。今後は、教員から要望アンケート等を実施して、どのような研修が必要であるかを精査し、さらに研修の充実に努めていきたい。
20	外部講師の活用	外部専門家を活用した実態把握、指導方法、内容に取り組む。	8.3%	66.7%	16.7%	0.0%	8.3%	要望通りに実施できた。限られた予算の範囲内であったが、専門的な内容の指導を受けて、その後の授業内容の改善に活かすことができた。
21	危機管理	定期的な安全点検の取り組みにより環境保全に努めるとともに、防災避難訓練の実践により危機対応技能を高める。	2.8%	61.1%	25.0%	11.1%	0.0%	毎月の安全点検を行い、適宜修理など行うことができた。防災避難訓練を実施し、避難方法の確認ができた。課題について、多くの反省事項があげられており、今後改善しながら取り組んでいきたい。
22	開かれた学校づくり	オープンスクール、学校説明会など校内、校外の向けて設定する。	30.6%	55.6%	11.1%	0.0%	2.8%	オープンスクールを通じて、本校に興味関心を抱く多くの中学生やその保護者に、本校の教育内容を知っていただく機会を提供することができた。今後、安全に配慮して開催できるように、受付方法など改善していく。
23	勤務時間の適正化	会議、委員会を効率的に運営するとともに、週1回の定時退勤を推進し、職員の過重労働を縮減する。	5.6%	50.0%	38.9%	5.6%	0.0%	学年会等の会議の他、生徒指導用務で勤務時間外に対応する頻度が増えており、負担軽減につながりにくかった。会議の効率化は引き続き実施していくとともに、生徒指導に対応しやすい組織体制づくりも努めていく。